

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより令和4年8月2日発行

8月の主な行事予定

8月 3日(水)第47回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会(東・中・西各会場)
8月10日(水)・24日(水)社会教育関係者のためのICT活用研修会(オンライン開催)
8月26日(金)鳥取県人権教育アドバイザー及び市町村人権教育担当者等研修会(倉吉体育文化会館)

子育て・家庭教育支援員等フォローアップ研修会

7月7日(木)、第1回の講座が、まなびタウンとうはくにて開催されました。前半は県の取組についての説明が行われ、後半は南部町家庭教育支援の事例発表と大阪教育大学 新崎特任教授の講義がありました。

南部町の実践では、保・小と教育委員会の連携、町内機関と教育委員会の連携、健康福祉課・子育て支援課と教育委員会の連携について紹介され、切れ目のない支援や地域へつなぐ連携のあり方について考える機会となりました。

講義「市町村の家庭教育支援の充実に向けて」では、以下のような重要なキーワードがたくさんありました。

①子育て・家庭教育支援に関わる皆様をお願いしたいこと

- ・「話し上手、聴き上手」になる。
- ・「助け上手、助けられ上手」になる。
- ・「伴走支援」を心がける。



②貧困が子どもに及ぼす影響

- ・自信を失い、自己肯定感をもちにくく、意欲や将来への希望をもつことさえ難しくなる。
- ・大人になってからの仕事や家族形成にも影響を与え、まさに貧困の連鎖が心配される。

③教育と福祉に共通の基本理念

- ・相手の立場になって考える心(みんな違ってみんないい)
- ・決してひとりぼっちにしない心(つながりが大切)
- ・自尊感情、自己有用感を育てる(人は必要とされることを必要とする)

④家庭教育支援はナナメの関係づくり(暖かい優しい関係)

⑤コミュニケーションは、心のキャッチボール

今回は直接お話を聞きたくなるほど、非常に魅力的な内容ばかりでした！



地域コーディネーター養成講座

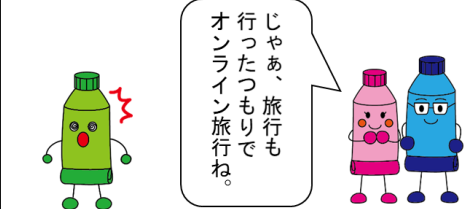
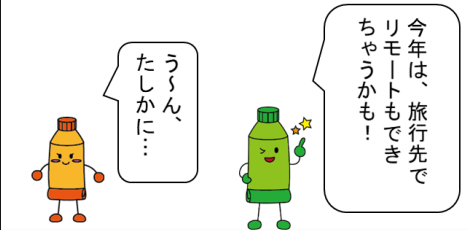
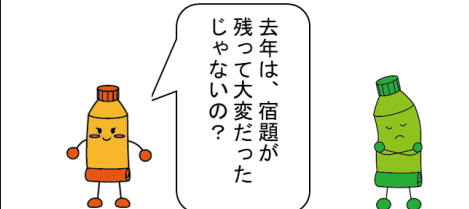
7月12日(火)に東部・中部・西部それぞれの会場に集合してオンライン開催を行いました。前半は、岡山大学 熊谷教授の講義でした。「社会教育と学校教育が協働した地域づくり・人づくり」と題して、社会教育の概念や地域学校協働活動におけるマネジメントと組織作り、また、地域学校協働活動の充実についてお話しになりました。セカンドステップは活動の「質」、地域の中高校生には「番組と役割と立場をつくる」ことが、「あてにされる」関係の創造につながると、ご示唆いただきました。

後半は、岡山県浅口市寄島学園のコミュニティ・スクールの立上げから現在に至るまでと、倉吉市立小鴨小学校の「学校と地域の連携協働について」それぞれ実践発表をいただきました。寄島学園では、子ども達に関わる地域住民にアンケートを実施し、学校・家庭・地域それぞれが抱える課題を共有することで、「なりたい・育てたい子どもの姿」をイメージ。また組織体制も柔軟にしたり地域へ活動内容をPRしたりするなど、様々な工夫がなされていました。

柘田さん(小鴨小地域コーディネーター)の実践発表では、活動部隊の核となる「学校支援ボランティア」の関わりや活動内容について詳しく紹介していただきました。参加者からの質問では、ボランティア募集の仕方や継続していくコツを聞かれていました。それほど、他地域ではボランティア確保や、活動を継続していくことが課題のようです。今回の研修をとおして、次の活動へのステップとなれば幸いです。

ちゅうぶくん

～続・今年の夏休み～



【あしがき】

8月になると、思い出します。「今まで野球をやらせてくれてありがとう。」これは次男が大学2年の8月に、硬式野球部をやめる前に送ってきたメールです。コロナの影響で大会も全てなくなってしまい、バイトに明け暮れるようになったからかと思っていました。後で指導者に聞いたところ、肘を痛め、医師からは半年の練習停止を言い渡されていたそうです。指導者からもレギュラーとして活躍を期待され、これからというタイミングで自分の夢をあきらめなければならない思いを、あえて言わなかったのだと思いました。同じ野球人としては非常に残念でしたが、親としては、第2のスタートを応援するのみです。

中部教育局 社会教育担当係長 徳永正樹

電話 0858-23-3253

FAX 0858-23-5203

E-mail tokunagama@pref.tottori.lg.jp

